

2017年4月にスタートした恩返し活動のポイント制度。
1ポイント=100円に換算し、2017年は2,577万9,500円を
11団体へ寄付しました。今回は、そのうちの2団体についてご紹介します。

公益財団法人 豊田市国際交流協会 (TIA)

活動分野: 国際交流 所在地: 豊田市

在留外国人の 日本語能力向上に貢献

当協会は1988年の設立以来、「国際化の主役は市民である」の理念のもと、「国際交流」「国際理解教育」「多文化共生」を3本柱に活動しています。現在、豊田市には約70カ国、1万7,000人ほどの外国人が暮らしています。「日本語教室の運営」は設立当初から継続している事業のひとつで、日本で暮らす外国人の日本語能力向上につながっています。



今回作成した日本語教室案内パンフレット



日本語教室の授業風景

MESSAGE

主任 宮本 貴文さん 主任 平田 彩花さん

このたびは「国際交流」の分野に寄付していただきありがとうございます。「日本語を学びたい」という外国人は年々増えています。希望者が効率よく自分に合った教室探しができるよう案内ツールを充実させるなど、有効に活用させていただいております。



MESSAGE

東京事務局 中塚翔子さん

いただいた寄付金を活用し、アスリートの描き下ろしにはじめて挑戦しました。躍動感あるアスリートをテーマにした創作は、彼らの表現の幅を広げ、新たな可能性を拓ききっかけとなりました。名古屋オフィスのエレベーターラッピングにも採用いただき、本人たちやご家族はじめ、たくさんの方々喜んでます。



アーティストの川邊紘子さん



スペシャルオリンピックスとのコラボレーション

エイブルアート・カンパニー

活動分野: 芸術・文化 所在地: 東京都など

障がいのあるアーティストたちの創作活動を支援

「エイブル・アート・ムーブメント(可能性の芸術運動)」を提唱し、1995年から活動を行なっています。2000年代からは、特に障がいのあるアーティストの創作活動の支援に力を入れており、障がい者アートを企業や団体のデザインに活用いただけるよう働きかけるなど、障がいのある方の社会的イメージの向上やメッセージの発信につながる機会創出を図っています。

ボランティアに参加してみませんか?

ボランティア募集情報・講演会情報を掲載中です。ぜひご活用ください!!

■ 恩返し活動HP

<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/25/Pages/AG/Ongaeshi/Ongaeshi.aspx>

T-Wave → 恩返し活動&Human Relations → 恩返し活動



■ スマイルゆうネット

<http://genki365.net/gnkt/customer/toyotagr/index.php>

スマイルゆうネット

チェック!

※IDとPWが無くてもお申し込み可能です。
ご不明な点はトヨタボランティアセンターまでお問い合わせください



特別じゃないこと、はじめよう

hellō volunteer

はろー
ぼんていぶ

トヨタボランティアセンター情報誌

2018年第7回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・愛知

「SOは、学びの場」。 それを実感できた3日間。

「2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知(以下、SO2018愛知)」は、トヨタがスペシャルオリンピックス(以下、SO)国際本部のグローバルパートナーに就任して以来、初めて経験する全国大会。地元開催ということもあり、運営スタッフ、観客としてたくさんの当社従業員がSOに「参加」し、それぞれに学びの機会を得てきました。



日にち 2018年9月22日(土)~24日(月・祝)
場所 トヨタスポーツセンター、スカイホール豊田など愛知県内各所
参加者数 20,495名

【アスリート】1,006名
【役員・コーチなど】608名
【大会役員・審判など】419名
【運営スタッフ】のべ3,801名(トヨタ自動車の従業員 のべ941名)
【観客】のべ13,800名(トヨタ自動車応援ツアー参加者 960名)
【付帯イベント参加】861名



「あれ、名簿は？名札もないけど」「自分たちで何とかしよう」
「三好ヶ丘駅からのシャトルバスはあるのか？ないのか？このままでは人員配置決められない」「DAL*がどの選手団を担当するのか、決まっていないのか？」「どうもそのようだ。自分たちで決めてもよいか、相談してみよう」

大会初日。波乱の幕開け。何とか事態を打開しようと額に汗するトヨタの運営スタッフ。実際、想定以上の臨機応変の対応・チームワークを発揮する場となりました。

昨年11月。「知的障がいのある有無に関わらず人の差別をなくし、すべての人が参加できる社会を生み出すこと」との理念に共感し、トヨタはSO国際本部のグローバルパートナーとなり、その社会の実現に向けて共に歩んでいくことになりました。その最初の大きな機会が、9月22～24日の3日間、愛知県内各地で開催された「SO2018愛知」。のべ941人の当社従業員が、運営スタッフとして大会支援に携わりました。

できたこと、できなかったこと。すべてが成長の機会になる



たくさんのトヨタ関係者が応援に駆けつけた

運営スタッフは選ばれた当初6割がSOを知らず、9割がSO活動への参加は初めて。大半がこれまで知的障がいのある人と接する機会がなかったこともあり、「健常者と変わりなくスポーツができることを知った」、「当たり前ではあるが、知的障がいのある方にも個性があることを実感した」など、認識が変わりました。また、「素直に喜びを表現する姿や、敵味方関係なくアスリート同士がお互いを讃え合う姿に感動」、「決勝に出た全員にメダルが渡され、SOの意義を改めて実感」など、大会を通してSOの活動への理解も深まりました。

一方、「必要な備品が必要な時にあるべき場所がない」「役割や情報が不明確」「受けた説明と実際が違うが相談できない」など運営の問題点が浮き彫りに。しかし、こうした状況だったからこそ、「突発事項が発生した際、柔軟に対応できる現場力は不可欠」、「情報が少なく混乱している中、何ができるかをチームで共有しながら進めることの大切さを実感」といった学びの多い機会にもなったようです。その結果は、90%以上の人の「自分にとって有意義だった」という満足度の大きさに表れており、大会スローガンの「超える喜び。」をそれぞれが実感できた、ということかもしれません。

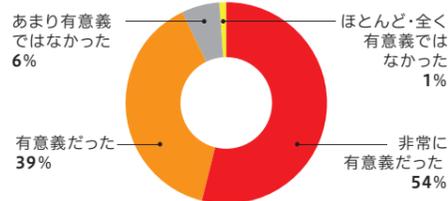
*Delegation Assistant Liaisonsの略で呼称はダル。各地区の選手団（コーチ・アスリート）のお世話係



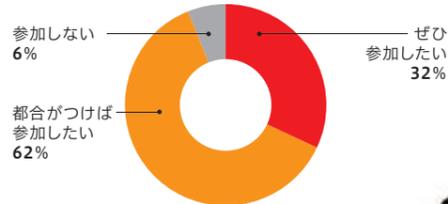
アスリートと運営スタッフの間には、深い絆が育まれた
表彰式に笑顔で参加される高円宮妃久子殿下と社長の豊田さん

運営スタッフへのアンケート結果(抜粋)

Q. 今回の活動は、自分にとって有意義だったと思いますか？



Q. 今後もSOの活動に参加したいと思いますか？



運営スタッフより

本社工場機械部 掛水 信行さん

まず、一歩踏み出すことから

今回初めてSOの大会運営に関わりましたが、ジョブ責任者の方をはじめ、皆が楽しそうに、責任を持って行動しておられる様子を見て、「嫌々やるのではなく楽しくやること」が一番大切なことだと思いました。自分自身も人と触れ合う楽しさや社会へ貢献する喜びを感じることができ良かったです。まず一歩踏み出すことで、新しい世界が見え、人生が変わるかもしれません。これからも、障がい者の方たちのフォローや手助けができるよう、またアスリートの方たちと深く関わられるようなボランティア活動に参加したいと考えています。



運営スタッフより

調達プロジェクト推進部 大島 ひとみさん

少しでも活動を継続していきたい

参加前はSOの知識がなく、障がいのある方とコミュニケーションをとったこともありませんでした。今回、DAL担当でアスリートやコーチの方々と行動する中、障がいやSOのことについてお話を伺え、また、名前を覚えてもらったり感謝の言葉をいただいたりして学び・感動の多い経験となりました。多くのスタッフが「次回も参加したい」と言っていたのが印象的です。今回をきっかけに、11月の車いすダンスのボランティアに参加することにしました。小さなことからでも、まずは行動してみることでいいですね。



Toyota Volunteer Center

ACTION

トヨタ
ボランティアセンターの
活動報告

トヨタボランティアセンターでは、従業員(家族・OB/OGを含む)を対象に、地域を取り巻く様々な課題の解決につながるような自主活動を企画し、実施しています。

トヨタバリアフリー講座

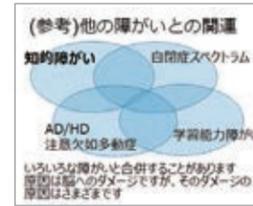
第13回 今、あらためて 知的障がいって何？

日にち:6月30日(土)
場所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

93名受講

大切なことは周囲の理解と接し方

豊田市こども発達センターの臨床心理士 松浦利明さんをお迎えし、知的障がいの方への接し方などについて学びました。知的障がいの方は、周囲の理解や配慮で障がいの影響を軽減できる場合が多いと言われています。松浦さんは「本人の力に合わせ、できなくても繰り返し伝えることが大切」と語りました。



講演資料より抜粋

受講者より

電子制御基盤技術部 御厨 寿正さん

SX会 技術支部の役員として、「田んぼ再生プロジェクト」や「スペシャルオリンピックス」などのボランティア活動に参加する中、知的障がいへの見識を深めたいと思い受講しました。はじめて聞く話ばかりで、私たちがいかに知識不足だったかを実感しました。今までは、知的障がいの方にこちらから声をかけることができませんでしたが、今後は思い切って声をかけ、笑顔と一緒に活動していきたいです。



受講者より

田原工場 車体部 尾上 隆史さん

知的障がいの方が描くアート作品を実際に間近で見、発想の自由さや豊かさを感じました。知的障がいの方に対して、正直に言う「何を考えているのかわからない」という印象でしたが、彼らの行為や言動の一つひとつを「表現」として捉える見方を教えていただき、知的障がいの方へのイメージが変わりました。



独創的な作品の説明を受ける親子



受講者の作品

第14回 「常識は通用しない」障がいのある人の表現の世界

日にち:7月14日(土)
場所:組合会館「カバハウス」(愛知県豊田市)

46名受講

「表現」として捉えることで、はじめて見える世界がある

高浜市やきもの里かわら美術館の学芸員 今泉岳大さんをお迎えし、知的障がいの方々のアート作品についてご紹介いただきました。今泉さんは「一見それがアートに見えなくても、本人にとっては、自分の生活の中で創意工夫のもとに創り出した大切な行為です。広い意味で「表現」として捉え、コミュニケーションしてゆくことが大切」と語りました。「表現」として捉えることで、一見異質なものも、一歩踏み込んで見ることが出来る。大切な気づきが得られる講座でした。



第15回 鈴木朋樹選手講演会・車いすレーサー体験会 「挑戦! ~限界のその先へ~」

日にち:8月4日(土)
場所:トヨタ会館(愛知県豊田市)

71名受講

車いすは、コンプレックスじゃない

車いす陸上 鈴木朋樹選手(社会貢献推進部)の講演会を開催。「車いすの人の周りには、いまだ『かわいそう』という視線や感情があふれていますが、それは見慣れていないからです。だからこそ自分は、東京パラに出場し、多くの人の目に触れる存在でありたい」と、自身の想いを語りました。また、技術部の「チーム鈴木」は、「半端なく凄い!身体能力」についてデータを交えて解説。ボクサー並みの腕の速さや、常人を超えた身体可動域について説明していただきました。



スピードトライアル



動画や写真を交えたプレゼンテーション

受講者より

パートレンドigital改革部 田口 幸作さん

お話を聞いているうちに、気が付いたら鈴木選手を障がい者ではなく、1人のアスリートとして見ていました。心のバリアをなくすことは容易ではありませんが、パラスポーツの観戦をすることで、少しずつ健常・障がいを区別するバリアを取り払いたいと思いました。



田んぼ再生プロジェクト

日にち:2018年6月~10月
場所:耕作放棄地(愛知県豊田市)

のべ**234**名参加



みんなで田植え



稲刈り

ボランティアより

SX会 技術支部の皆さん



支部長 宮本 昌司さん
筆頭副支部長 はりま 播磨 健司さん
副支部長 みくりやとしまさ 御厨 寿正さん

お米以外にもたくさんの収穫がありました

障がいについて知ることから始め、少しでもお力になればと思い参加させていただきました。活動中はなかなかお声かけが出来ず、本当にお役に立っているのか?と不安に感じていましたが、最後の収穫祭で、「あんたら、いつも来てくれてありがとな〜楽しかったよ」と笑顔で言って頂き、「微力ながら貢献できた」という実感と、「やって良かった」という嬉しさを、感じました。一歩を踏み出し、始めた事で、何気ない日常では気付きにくい笑顔や人と人のつながりの大切さ多くのことを収穫できた活動でした。

米づくりの苦勞を分かち合い、喜びを共有

豊田市では農業人口が減少し、休耕田が増えています。この状況を食い止めようと、2017年より障がいのある方の生活や就労の支援を行なっている社会福祉法人 無門福祉会(以下、無門)とトヨタ自動車タグを組み、田んぼ再生プロジェクトを立ち上げました。2018年も引き続き活動を継続し、障がいのある方と当社従業員と一緒に休耕田で米づくりに励みました。

今年は社内より募ったボランティアに加え、「SX会 技術支部」と「HORYU(豊隆会) 堤第一ボデー職場会」の社内2団体も参加。昨年の2倍以上となる、のべ234名の従業員にご協力いただき、田植えをはじめ、除草、畔の草刈り、稲刈りなどの作業を担いました。その中でも除草は、米づくりの中でも特に大変な作業と言われています。1本1本丁寧に手作業で行う手除草から、全身の力を必要とする除草機による作業、チェーンで小さな草を発芽させないようにするチェーン除草などを、額に大粒の汗を流しながら懸命に取り組まれました。田植えから収穫まで5カ月間にわたる米づくりの経験は、ボランティアの皆さんにとって確かな学びや経験が得られる機会となりました。「米づくりを経験したことがなかったが、年間を通して参加したことで農家の方の苦勞がわかった」「知的障がいのある方と触れあうことで、障がいに対するイメージ変わった」「地域とのつながりが深まった」などの声が聞こえてきました。そして、無門 事務局の磯部竜太さんからは、「こうやって、皆さんが来て一緒に活動してくれることは、本当にありがたいことです。障がいのある方は、地域との関わりが薄く孤立しがちになるのですが、こうした活動が、彼らと地域を結び、彼らを元気にしているんですよ!と、メッセージをいただきました。

今年は近年まれにみる猛暑でとても過酷な現場となりましたが、大変だった分、障がいのある方々とは昨年以上に打ち解けられたように思います。米づくりの大変さはもちろん、障がいのある方への理解がますます深まり、参加者1人ひとりにとって大変意義深い活動となりました。



チェーン除草



押す除草機を使って仲よく並んで



稲刈りの後に食べたおにぎりは格別!!

平成30年7月豪雨 倉敷市災害ボランティアセンター運営支援

日にち:2018年7月27日(金)~10月22日(月)
場所:岡山県倉敷市災害ボランティアセンター

24名参加

「トヨタらしい支援」を現地で実践

TDRS*プログラムの一員として、社内の災害ボランティアコーディネーター養成講座を受講したメンバーが、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)で大きな被害を受けた岡山県倉敷市で復興支援活動を実施。7月27日(金)~8月31日(金)まで2名のメンバーが被災地に常駐し、2つのミニサテライト拠点などで活動しました。9月以降も週末に4~6名が3回に分かれて現地を訪問。被災されたお宅を1軒ずつ回り、被害に遭われた方の困り事や要望をマップ上に見える化するなどの活動を行ないました。

今回の経験は、豊田市でも今後発生する可能性がある豪雨災害における支援活動の実践であり、メンバーにとって大きな経験となりました。現地現物を信条とするトヨタの業務で培った判断力や行動力は被災地でも大いに発揮され、TDRSが目指す「トヨタらしい支援のあり方」を体現することができました。そして、被災された方やボランティアの受入先である倉敷市社会福祉協議会の皆様に感謝いただけたことは、メンバーにとって大きな自信となり、今後の人材育成にもつながりました。

*Toyota Disaster Recovery Support(災害復旧支援)



近畿ブロックの社協職員と2人でミニサテライト拠点を運営



全国から集まったボランティアに活動をマッチング



被災された方から要望を直接ヒアリング

ボランティアより

パワートレーン工機部 湯澤 龍治さん
かけがえのない「あたりまえの日常」



あたりまえの日常が一瞬で無くなる…。その現実を目の当たりにしたことで、改めて家族がいて、家があり、仕事ができる、このかけがえのない幸せに感謝するようになりました。被災者の方々が1日でも早く日常に戻れるよう、今回の経験を仲間へ伝え、これからも復興支援に関わっていきたく思います。現地での復興支援でなくとも、募金やSNSでの情報発信など、できることから一歩を踏み出してみてください。きっと新しい自分に気付けると思いますよ。

受入先より

(福)倉敷市社会福祉協議会 小野 睦子さん
赤いビブスが目印の頼もしい存在



トヨタ自動車の皆さんには、真備町川辺地区にある2つのミニサテライトの運営を担当していただきました。熱中症の警報が毎日発令される中、被災された住民のお宅を1軒ずつ訪問して、困り事を尋ねてもらったり、ボランティアセンターのチラシを配っていただくなど、いいねい皆さんの活動に住民の方も大変喜ばれていました。皆さんが着用していた「赤いビブス」は、とても身近で頼もしい存在に感じられました。

ご協力
いただき
誠にありがとう
ございました

「平成30年7月豪雨」 社内義援金ご協力の御礼

全役員・全従業員を対象とした
義援金のご協力について、
最終の金額をご報告いたします。

義援金 **14,534,210**円

この義援金総額に対して、会社側が同額を上乗せし、
「日本赤十字社」へ寄贈いたしました。



担当地域を1軒ずつ確認し、被災状況を地図上で見える化



ボランティアを活動場所に誘導

ボランティア★しる・する・ひろがる月間

日にち:9月1日(土)~9月30日(日) 約600名参加
場所:日本および欧州

ボランティアをいつもより
身近にする1ヵ月間

社会貢献推進部では、2018年より毎年9月をグローバルで「ボランティア★しる・する・ひろがる月間」とする取り組みを開始しました。従来より実施しているボランティア活動に加え、強化月間として様々な活動を展開することで、「同じように活動している世界の仲間思いを馳せる」「いつもより少しだけ余計に助けを必要としている人/社会のことを考える」「いつもより少しだけ余計に活動してみる」ことへのきっかけとします。この取り組みにより、ボランティア活動への関心が高まり、積極的に参加していただける従業員が増えることを願っています。

今年は以下の活動を中心に実施しました



1 世界150カ国、約1,800万人が参加するWorld Cleanup Day(9月15日)に合わせて、TMC、TMEおよび欧州16カ国で約600人の従業員がゴミ拾い活動を実施



2 普段なかなか目にする事のないグローバル16事業体のボランティア活動の様子をT-visionで放送



9/22 フレンドリーフェスタで清掃活動を行なった国内販売店部の皆さん

一人ひとりの小さな活動も、大勢集まれば大きな変化につながります。身近なことから、できることから、グローバルでボランティア活動を盛り上げていきましょう!

2018年 活動一覧

日付	活動名	参加人数	場所
13日	トヨタクリーンネット	120名	東京
15日	ラグビー部公式戦でゴミ拾い	20名	
22日	オールトヨタフレンドリーフェスタでゴミ拾い	13名	本社地区、名古屋
26日	トヨタ産業技術記念館でゴミ拾い	21名	
15日	TMEおよび欧州各国清掃イベント	496名	海外(16カ国)



9/13 クリーンネットに参加した東京本社の皆さん



9/15 WCDイベントに参加したTMEの皆さん(ベルギー)



9/15 WCDイベントに参加した販売店の皆さん(エストニア)

ボランティアより

TME インターナルコミュニケーション部
アンドリュー・ギルヴァンさん



今すぐアクションを起こそう!

World Cleanup Dayとトヨタボランティア月間の存在を知り、ボーイスカウトのメンバーを誘って、地域の清掃活動を実施しました。清掃活動中には、ゴミがどのように捨てられ、どうしたらリサイクルできるかなどの議論があり、ゴミのないよりよい未来を築くための大きな一歩になったと思います。自分たちの世界を変えていくためには若い人たちの力がもっと必要です。さあ、今すぐアクションを! 私たちが暮らす地球に代わるものはないのですから。

ボランティアより

TME アドバンス パワートレーニング部
マリア・エスメラルさん



みんなで行動すれば大きな力になる

普段訪れる公園にはたくさんのゴミがりましたが、今までは見過ごしてきました。しかし、World Cleanup Dayをきっかけに、公園などで落ちているゴミを見つけたら、ゴミ箱まで持って行くようになりました。トヨタの新しい取り組みが私の背中を押してくれたのだと思います。たとえ一人ひとりの行動は些細でも、みんなで行動すれば最終的には大きな成果を生み出すことができます。ボランティアがトヨタ従業員の間で自然なこととなるよう私も協力していきたいです。

笑顔

Smile Together

愛

— 各職場の活動報告 —

ボランティアサークル、工場や拠点、部署ごとにおいても自主的にイベントを企画し、楽しみながらボランティア活動を行っています。

EX会 車両系生技支部 古本募金 399名来場

日にち:2018年7月22日(日) 場所:元町厚生センター(愛知県豊田市)



実施内容

古本収集期間:2018年4月4日(水)~7月21日(土)
収集数:3,719冊
募金額:52,866円(すべて寄贈品購入で使用)
寄贈品:フットサル(ゴール2セット、ボール1個)、ソフトボール(バット1本、グローブ3個)、卓球(ネット2セット、球10ダース)

子どもたちの笑顔のために

EX会 車両系生技支部では新たな社会貢献活動として、身近にある古本を集めた古本市を実施。来場者の方に本と引き換えに募金していただき、集まった募金で児童養護施設 梅ヶ丘学園様へスポーツ用品を寄贈しました。寄贈式では、子どもたちにスポーツ用品を直接プレゼント。子どもたちの喜ぶ姿を間近に見ることができた達成感のある活動となりました。なお、余った本はブックパトンを通じて寄付し、世界中の子どもたちの笑顔につながっています。

来場者より



広瀬工場 Z-フロント部 西崎 拓也さん
息子と楽しい時間を過ごせました

私も古本募金を通じて社会の力になりたいと思い、息子と一緒に会場へ足を運びました。アットホームな空間の中、懐かしいマンガに他の来場者と会話が弾むなど、楽しいひとときを過ごせました。息子も絵本をじっくり探せて大満足だったようです。自宅にある本を大切に扱って、次回は来場者としてだけでなく、古本提供の面でも力になればと思います。

寄贈先より



児童養護施設 梅ヶ丘学園 SV 関山 裕志さん
子どもたちは未来の宝です

この度は、梅ヶ丘学園に数々のスポーツ用品を寄贈していただきありがとうございました。子どもたちはピカピカのスポーツ用品を満面の笑顔で手にし、季節ごとに大会が行なわれる「フットサル」「ソフトボール」「卓球」の練習に日々励んでいます。子どもたちの眼を大いに輝かせる品々をいただいたことに深い感謝を感じています。本当にありがとうございました。

TOPICS

寄贈していただきました!

社内団体・技能専修コースの皆様より、たくさんの寄贈品をいただきました。ご協力いただきました皆様に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

EX会 車両系生技支部・パワトレ支部



書き損じハガキ 2,365枚

寄贈 公益財団法人 国際センター

SX会 車両系生技支部・パワトレ支部



外貨コイン 1,550.4g
ベルマーク 58,155.0点

寄贈 国際協力NGOジョイセフ 公益財団法人オイスカ

SX会 本部



書き損じハガキ 8,709枚

寄贈 公益財団法人 国際センター

2018年度前期 技能専修コース



ベルマーク 258,724.8点

寄贈 岩手県大船渡市 大船渡北小学校